

令和3年度 投資事業評価調書（継続：再評価〔第1回〕）

部課室名	県土整備部土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 勝野 真 (企画整備班主幹 森野 正之)	内線	4408 (4437)
事業種目	河川事業	水系名	八家川水系		
事業目的					
八家川河川整備計画（平成24(2012)年7月）に基づき、洪水対策・高潮対策を実施することにより、地域住民の安全・安心を確保する。					
八家川河川整備計画における「計画的に整備を進める区間」					
本川					
	区間	延長	整備目標	事業の状況	前回評価年度
①	河口～防潮水門 (高潮堤防嵩上げ)	0.4km	高潮時の浸水被害の防止	H28(2016) 完了	評価対象外
②	高水敷下流端 (防潮水門、ポンプ場)	—	同上	H28(2016) 完了	H24(2012) 整備計画 策定報告
③	防潮水門～三ツ橋 (河川改修)	0.3km	戦後最大流量である昭和40年9月台風23号と同規模の洪水(概ね20年に1回の確率で発生する洪水)を安全に流下させる	未事業化	
④	三ツ橋～山陽電鉄 (河川改修)	0.61km	同上	未事業化	
⑤	山陽電鉄 ～姫路バイパス (河川改修)	1.89km	同上	未事業化	—
⑥	明田川合流地点 ～姫路バイパス (洪水調節池)	—	同上	事業中	H28(2016) 新規評価

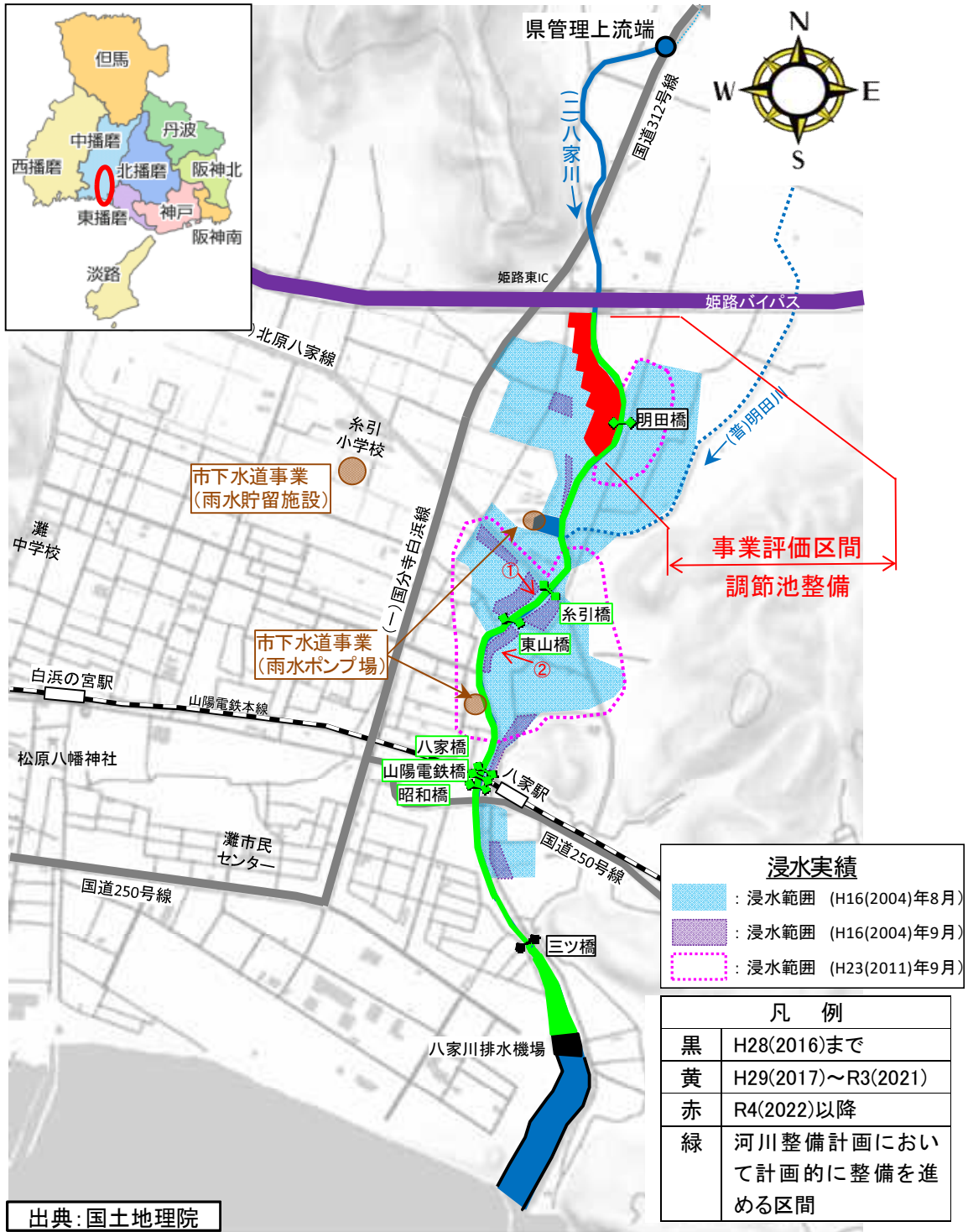
【明田川合流地点～姫路バイパス】

事業概要および進捗状況			今回評価内容 ( ) : 前回評価時点				
工区	事業区間	整備内容		全体事業費	進捗率	残事業費	完成 予定 年度
八家川	明田川合流地点 ～姫路バイパス	調節池整備	事業費	42億円 (16億円)	31% (-%)	29億円 (-億円)	R8 (R5)
			内用補	6.6億円 (7.8億円)	100% (-%)	0億円 (-億円)	

事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	気候変動の影響により、近年、豪雨災害が頻発化・激甚化していることから、河川改修に対する地元の要望は強まっている。
	<p>【前回評価時点（新規評価）からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】</p> <p>[事業費]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>埋蔵文化財調査による調査費の増額（7億円増）</li> <li>地下水対策等（矢板工・遮水コンクリート打設等）の追加（20億円増）</li> <li>用地費の減額（1億円減）</li> </ul> <p>[事業期間]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地下水対策等に関する工法の見直し検討による、事業期間の延伸（3年延伸）</li> </ul>
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29(2017)年度より用地買収を実施し、令和2(2020)年度までに完了</li> <li>埋蔵文化財調査（確認調査・本発掘調査）の必要性が判明し、令和元(2019)年度より埋文調査を実施</li> <li>令和3(2021)年度より調節池の整備に着手する</li> </ul>
評価視点	評価結果の説明
審査会意見及び対応方針 (H28年度新規評価)	<p>【審査会意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施にあたっては、完成後の調節池の平常時における利活用方法について、地元及び姫路市と十分に協議されたい。</li> <li>調節池の整備にあたっては、現地の自然環境に配慮し、保全目標を定めた上で整備することが望ましい。</li> </ul> <p>【対応方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平常時に利活用できる施設整備について検討するため、県・市・地元からなる“八家川洪水調節池の利活用計画作成協議会”を令和2(2020)年1月に立ち上げ、維持管理の役割分担等について検討を深めている。</li> <li>周囲堤等の築堤盛土材には、原則、調節池の掘削土を流用するとともに、周辺の在来種を参考に緑化に努める。</li> </ul>
(1) 必要性	<p>① 現況の流下能力は55m<sup>3</sup>/s（基準点：糸引橋）であり、計画流量80m<sup>3</sup>/sが確保されていないことから、調節池の整備により貯留分として10m<sup>3</sup>/sを先行して整備する。</p> <p>② 昭和40年以降も浸水被害を繰り返している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昭和40年9月台風23号〔床上70戸、床下200戸、浸水面積101ha〕</li> <li>平成2年9月台風19号〔床上92戸、床下296戸、浸水面積140ha〕</li> <li>平成16年8月台風16号〔床上32戸、床下169戸、浸水面積13ha〕</li> <li>平成16年9月台風18号〔床上1戸、床下28戸、浸水面積3ha〕</li> <li>平成23年9月台風12号及び豪雨〔床上41戸、床下113戸、浸水面積1.5ha〕</li> </ul> <p>③ 周辺は住宅開発が進み、過去の浸水区域内でも住宅が増加していることから、調節池を早期に整備し、治水安全度を向上させ、地域住民が安全に安心して生活できる環境を確保する必要がある。</p>

(2) 有効性 ・ 効率性  (事業執行環境)		① 費用便益比B/C=2.5 (河川整備計画の内、洪水対策の費用便益比) ② 河道改修は、下流から再整備が必要なため、用地買収や鉄道・道路の交差物件の改築が必要であり、長期間を要することから早期に治水安全度の向上が見込めない。 ③ 調節池を先行整備することにより、下流の洪水流量を低減することで、浸水被害の軽減を早期に図り、治水安全度を向上させることができる。 ④ 事業推進に対する地元の協力体制ならびに関係機関との協議・調整が進捗しており、事業執行環境が整っている。	
(3) 環境適合性		① 護岸等は可能な限り環境配慮型のブロックを用いて整備し、生物の生息・生育・繁殖環境の確保に努める。 ② 調節池周辺において散策等の憩いの場を設けるなど、河川環境の保全に努める。	
(4) 優先性		① 高潮対策として実施している八家川排水機場は平成29(2017)年度で完成しており、引き続き上流工区での浸水被害解消に向けた対策を実施する。 姫路市の下水道事業はH29(2017)年度より雨水貯留施設や雨水ポンプ場の設置などを実施しており、県市が連携した浸水対策を実施することで、流域全体の治水安全度向上を図る。	
の再評価 結果	継続	左の理由	事業の必要性・有効性等は事業採択時と変わっておらず、当該区間の早期供用を望む地元の声が強いため、継続して事業を実施する必要がある。

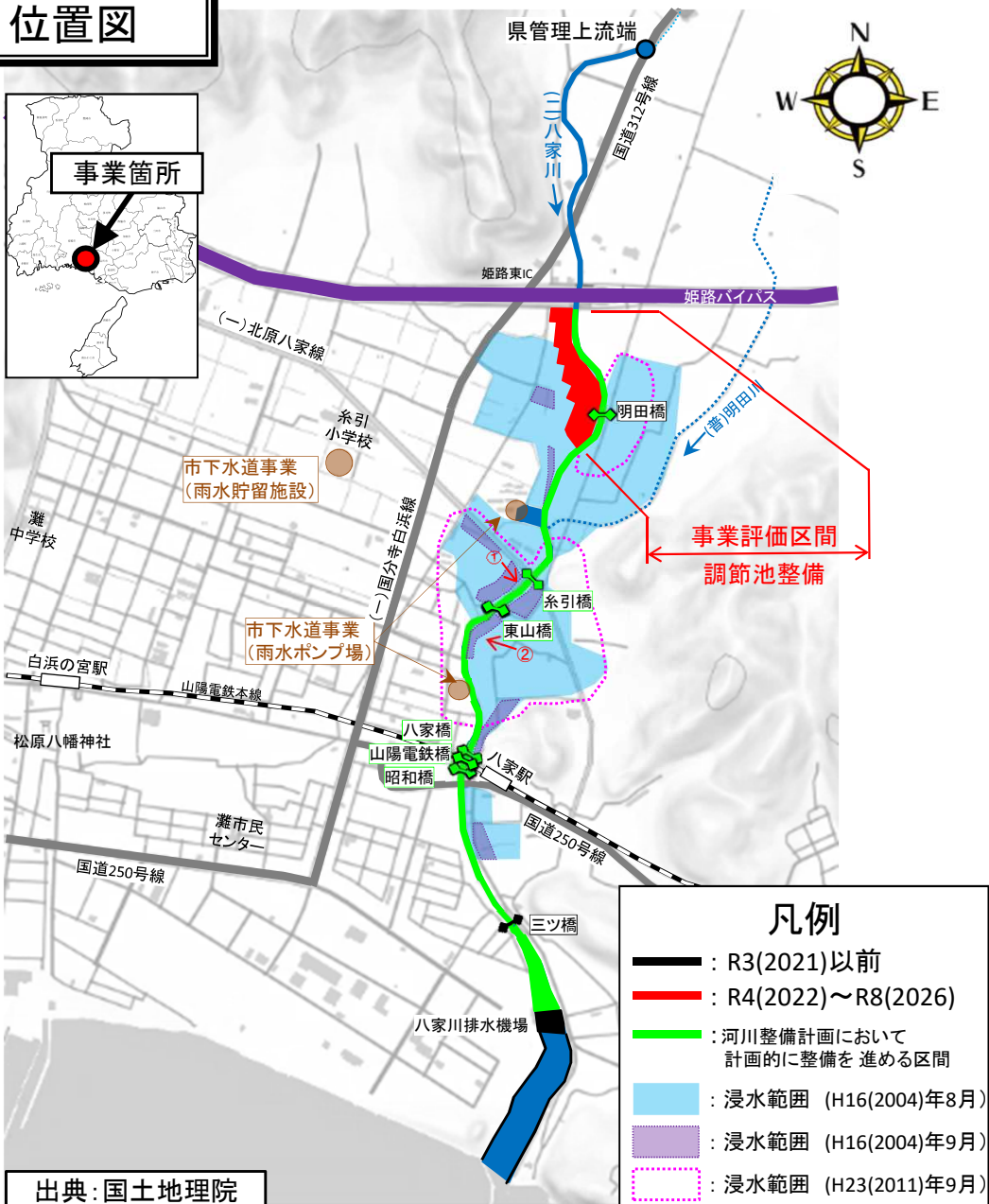
# 八家川水系八家川 河川整備計画 全体位置図



事業区間	河川整備計画全体 H28(2016)～ R8(2026)	前回評価から R3(2021)まで	今後5年間 R4(2022)～ R8(2026)
八家川 明田川合流地点 ～姫路バイパス	<b>【事業費＝42億円】</b> ・調節池整備 ・埋蔵文化財調査	<b>【事業費＝13億円】</b> ・調節池整備 ・埋蔵文化財調査	<b>【事業費＝29億円】</b> ・調節池整備 ・埋蔵文化財調査 ----- 流下能力の確保

# 河川事業 二級河川八家川水系八家川（継続：再評価〔第1回〕）

## 位置図



## 目的

戦後最大流量である昭和40年9月台風23号と同規模の洪水 (概ね20年に1回の確率で発生する洪水)を安全に流下させる。

## 事業概要

事業区間：明田川合流地点～姫路バイパス

総事業費：42億円

内用地補償費：6.6億円

事業期間：平成29(2018)年～令和8(2026)年

事業概要：調節池整備

費用便益比B/C：2.5 (河川整備計画の内、洪水対策の費用便益比)

## 浸水実績

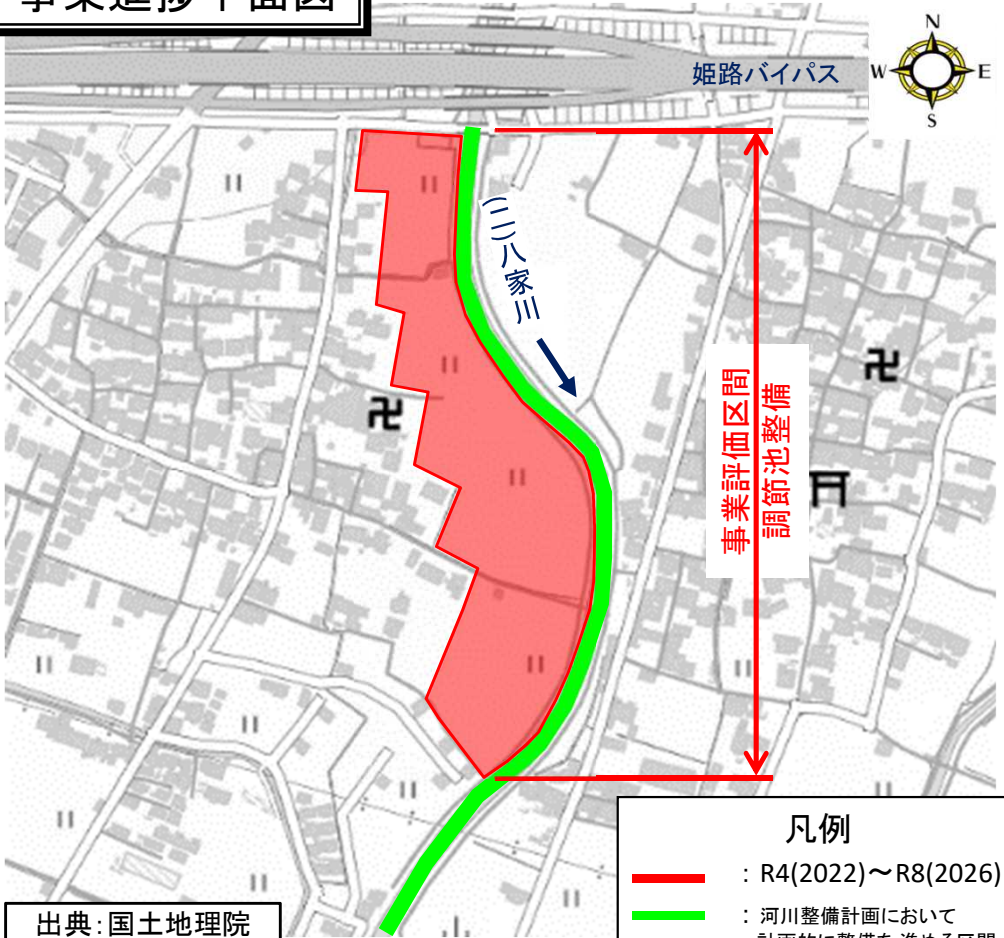
浸水実績 (平成16(2004)年8月)



浸水実績 (平成16(2004)年9月)



# 事業進捗平面図



- 凡例**
- (Red line) : R4(2022)~R8(2026)
  - (Green line) : 河川整備計画において計画的に整備を進める区間

出典:国土地理院

# 工程表

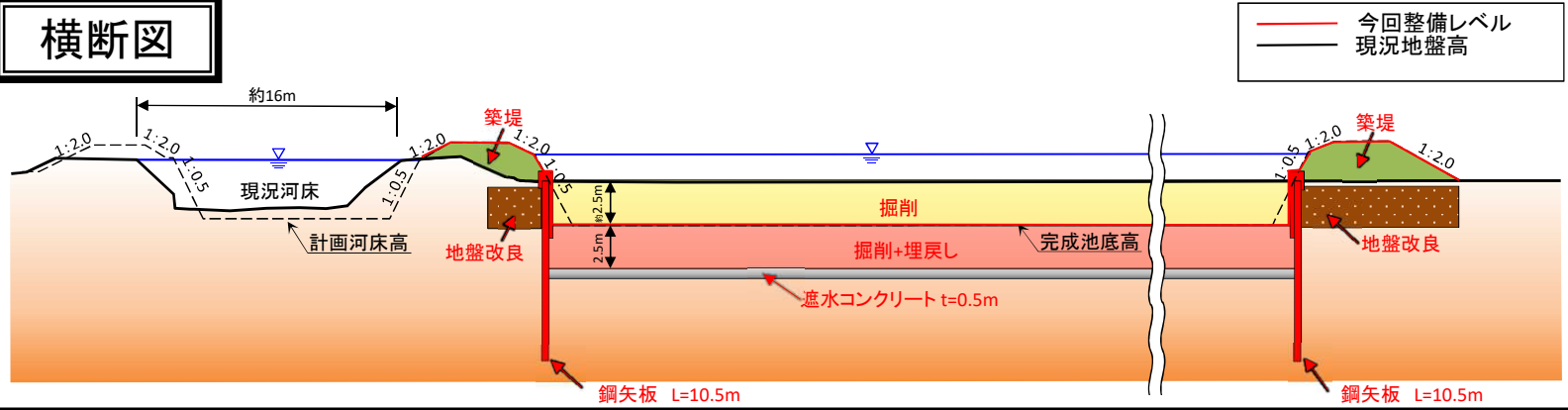
- (Blue) : 前回計画
- (Red) : 実施・計画

種別	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
測量・調査・設計	■	■								
用地補償		■	■							
埋文調査			■	■	■	■	■	■	■	■
調節池整備			■	■	■	■	■	■	■	■

# 現況写真



# 横断図



# 事業の有効性・効率性

## (1) 費用対効果

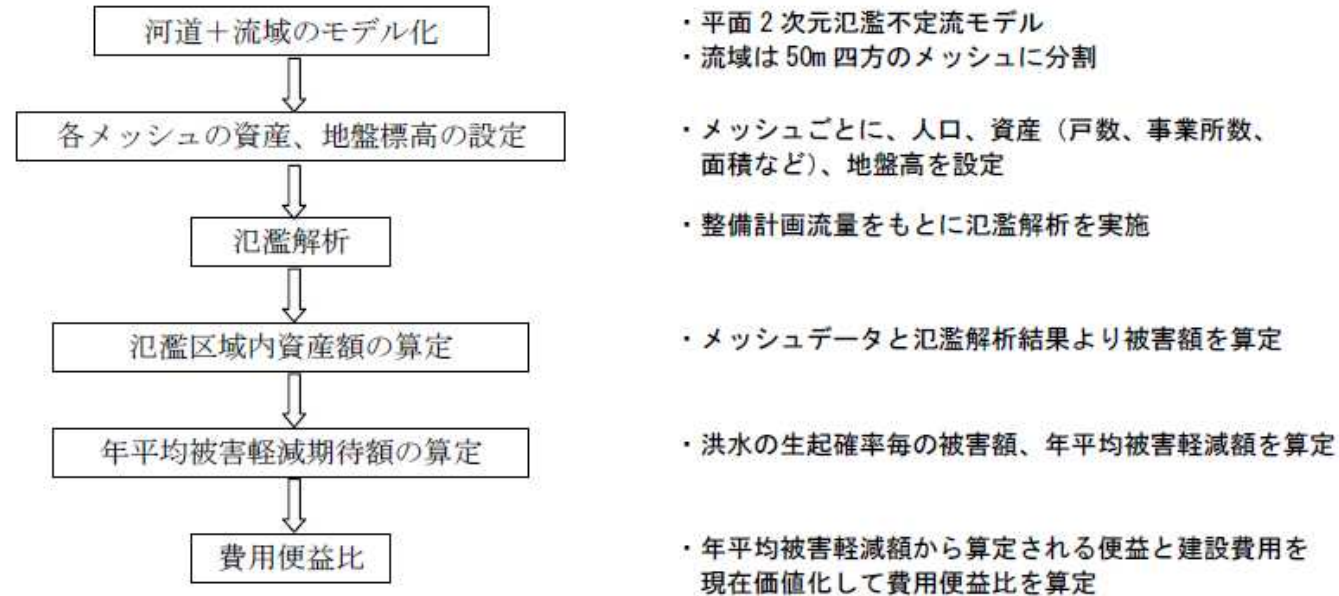
### ① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
治水安全度の向上	浸水被害の軽減 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所償却資産、農業家償却資産等)</li> <li>・農産物被害、公共土木施設等被害、営業停止被害、応急対策費用</li> </ul>

1) 便益 = 「治水事業を実施することによる被害軽減期待額」を現在価値化

$$\text{被害額} = \text{一般資産被害} + \text{農作物被害} + \text{公共土木施設等被害} + \text{営業停止被害} + \text{応急対策費用}$$

2) 費用 = 「建設費 + 維持管理費」を現在価値化



### ② 費用便益費(B/C)算出根拠

B(便益)		C(費用)			B/C
便益額	代表的な効果	総費用	事業費	維持管理費	
15,153	浸水面積 66ha 解消	6,032	5,383	648	2.5 <sup>※</sup>

※ 河川整備計画の内、洪水対策の費用便益比

## (2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目
社会経済活動等の安定	人的被害の軽減
	道路、鉄道等の交通途絶による波及被害の軽減
	医療・社会福祉施設、防災拠点施設、文化施設等の被害の軽減
	水害廃棄物の発生の軽減
魅力ある河川空間の創造	多様な生物の生活環境の保全・再生・創出
	親水空間の整備・景観への配慮

該当する事業内容等	
○	・浸水区域内人口1491人、災害時要援護者461人を解消、 ・最大孤立者285人(避難率0%)、171人(避難率40%)、35人(避難率80%)を解消
○	・(一)国分寺白浜線の交通途絶を解消(交通量21,959台/日)
○	・糸引保育園、糸引公民館(避難所)の浸水を解消
○	・電力の使用不能者168人、固定電話・通信の使用不能者170人の解消
○	・護岸には環境に配慮したブロックを活用し、多様な生物の生息・生育・繁殖の場を確保する。
—	—

## (3) 地域からの要望状況等

要望状況等	地元自治会から治水対策の促進について、毎年要望が出されている。
-------	---------------------------------

## 参考：事業の変遷

昭和31(1956)年：局部改良事業着手
昭和43(1968)年：播磨高潮対策事業着手
平成21(2009)年：八家川水系河川整備基本方針策定
平成24(2012)年：八家川水系河川整備計画策定
平成29(2017)年：調節池等整備事業着手